

新型コロナの情報はどこから得ているのか？

— 新型コロナウイルス意識調査より —

主任研究員 稲垣 円

<刻々と変化する状況を、どのような情報源から知るのか>

世界中に甚大な被害をもたらしている「新型コロナウイルス感染症」。日本においても、2020年1月15日に最初の感染者が確認されて以降、わずか4か月ほどで瞬く間に感染が広がり、4月7日に7都道府県を対象に緊急事態宣言が発令、16日には対象地域が全国に拡大された。日々刻々と状況が変わる中において、私たちは臨機応変に対応していかなければならない。では、人びとはこうした情報をどこから入手しているのだろうか。

第一生命経済研究所では、新型コロナウイルスの感染拡大を背景に、人々の生活や意識にはどのような変化が生じているのかを探るための緊急アンケート調査^{*1}を緊急事態宣言の直前に実施した。本稿では、この調査結果から新型コロナウイルス感染症に関する情報入手の実態を報告する。

<全体の7割以上が「情報収集を、積極的に行っている」>

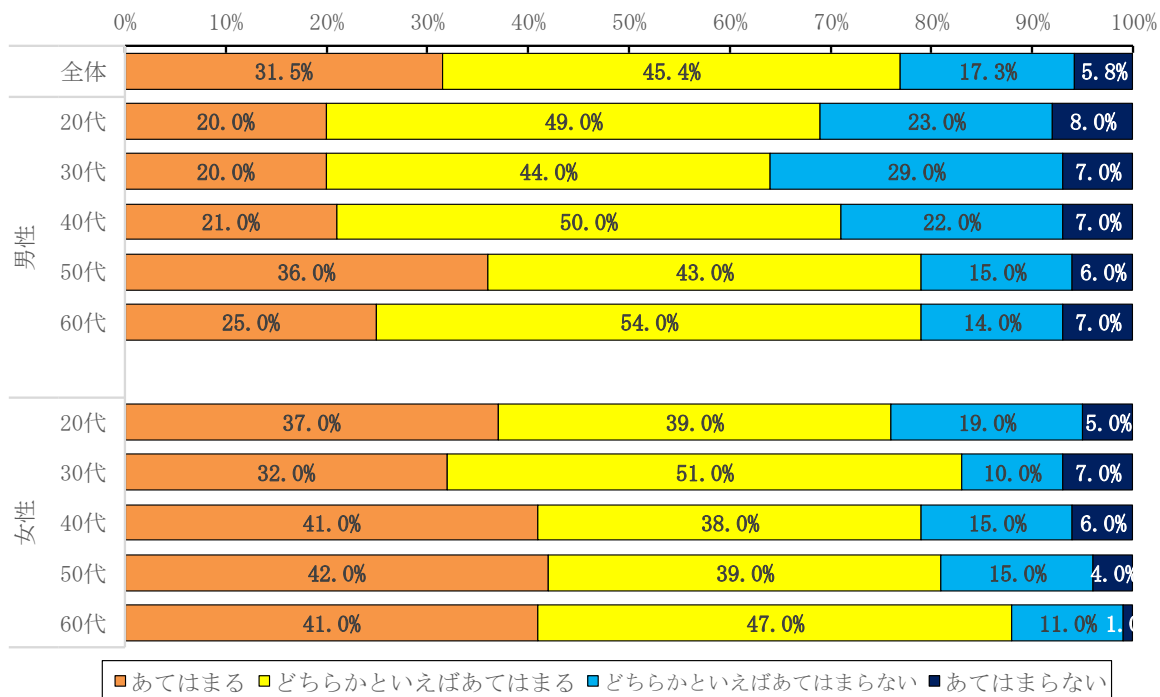
図表1に、新型コロナウイルスに関する情報収集を、積極的に行っているかたずねた結果（全体、性・年代別）を示す。

全体では、7割を超える人が「新型コロナウイルスに関する情報収集を、積極的に行っている」と回答した（「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した人の合計）。性・年代別にみると、情報収集を積極的に行っている割合は、男性では50代、60代の79.0%が最も高いのに対し、女性では30代、50代、60代で8割を超えている。女性は、全ての年代で7割を超えているが、男性では20代が69.0%、30代が64.0%であり、女性の方が、男性よりも新型コロナウイルスに関する情報収集に積極的な様子がうかがえる。

次に、同居家族による傾向をみた結果を、図表2に示す。

「同居子がいる」家庭、「65歳以上同居者がいる」家庭では、情報収集を積極的に行っている割合が8割を超え、それらと同居していない家庭および、「ひとり暮らし」家庭よりも、情報収集を積極的に行っている傾向がみられた（同居子がいる：80.6%、65歳以上の同居者がいる：80.2%）。新型コロナウイルス感染拡大による学校の一斉休校や高齢者への感染リスクなどが報じられる中、こうした層の情報収集への関心がより高くなっていることが推察される。

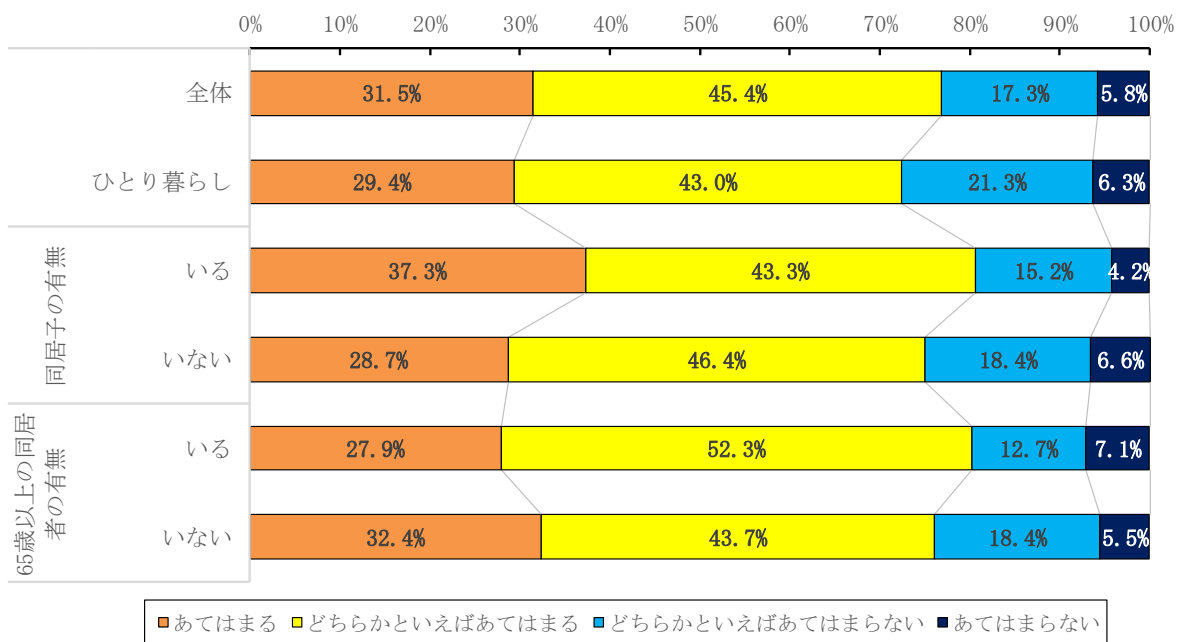
図表1 新型コロナウイルスに関する情報収集を、積極的に行っている(全体、性・年代別)



注1：本調査は首都圏などに緊急事態宣言が発令される直前の2020年4月3日～4日、全国の20～69歳男女1,000人を対象にインターネットにより実施された。

資料：第一生命経済研究所「新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査」2020年4月実施

図表2 新型コロナウイルスに関する情報収集を、積極的に行っている(全体、家族形態別)

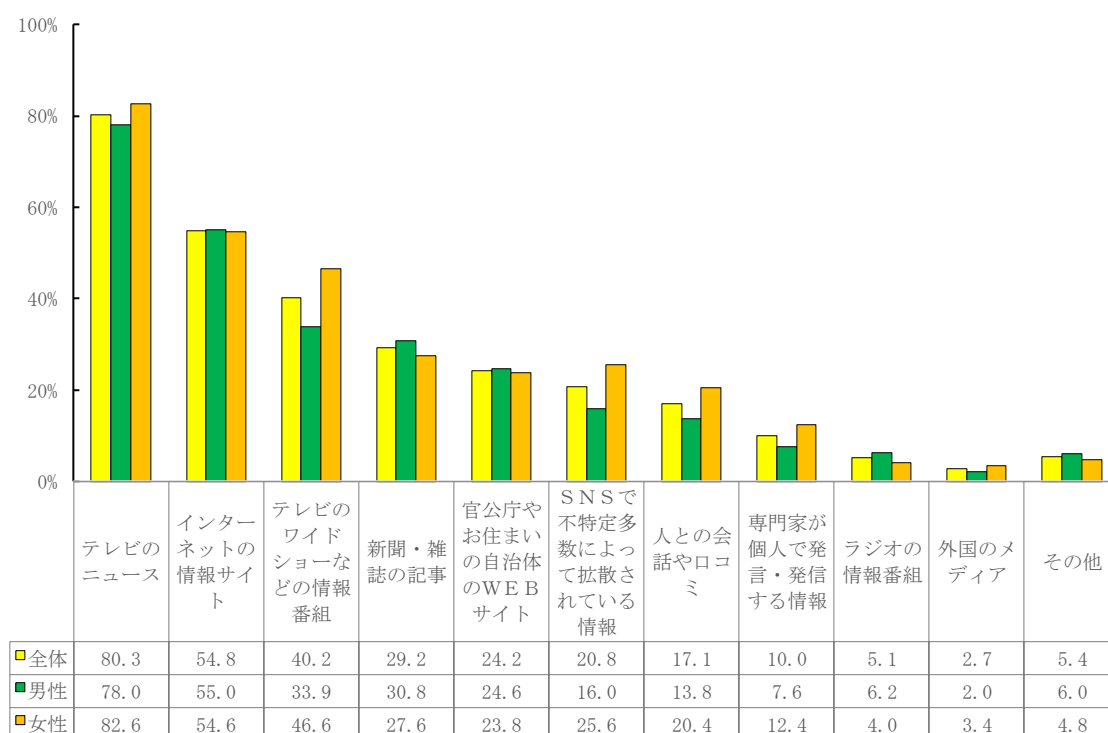


資料：第一生命経済研究所「新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査」2020年4月実施

＜主な情報源は「テレビのニュース」、20代女性はSNSで拡散された情報もチェックする＞

それでは、人びとは新型コロナウイルス感染症に関して、どのような情報源から情報収集しているのだろうか。調査結果をみると、全体では「テレビのニュース」が80.3%と最も高く、続いて「インターネットの情報サイト」(54.8%)、「テレビのワイドショーなどの情報番組」(40.2%)と続いた(図表3)。官公庁や自治体が公表する一次情報よりも、テレビやインターネット、新聞といった媒体を介した二次情報が、情報収集の主流となっている。性別でみると、「テレビのワイドショーなどの情報番組」「SNSで不特定多数によって拡散される情報」「人との会話やロコミ」の3つの項目において、男女で5ポイント以上の差が出ており、女性の方が多方面から情報を得ている傾向がみられた。

図表3 新型コロナウイルスに関する情報源(全体、性別)



資料：第一生命経済研究所「新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査」2020年4月実施

性・年代別では、高齢になるほど「テレビのニュース」「テレビのワイドショーなどの情報番組」「新聞・雑誌の記事」といった従来型のメディアの割合に高い傾向が見られた。さらに、20代女性の半数が「SNSで不特定多数によって拡散されている情報」と回答している(図表4)。

図表4 新型コロナウイルスに関する情報源(性・年代別)

		テレビのニュース	インターネットの情報サイト	テレビのワイドショーなどの情報番組	新聞・雑誌の記事	官公庁やお住まいの自治体のWEBサイト	SNSで不特定多数によって拡散されている情報	人との会話やロコミ	専門家が個人で発言・発信する情報	ラジオの情報番組	外国のメディア	その他
男性	20代	71.0%	53.0%	32.0%	22.0%	31.0%	27.0%	16.0%	11.0%	10.0%	1.0%	8.0%
	30代	72.0%	60.0%	28.0%	21.0%	25.0%	16.0%	16.0%	7.0%	5.0%	2.0%	9.0%
	40代	78.0%	58.0%	29.0%	30.0%	25.0%	12.0%	16.0%	5.0%	6.0%	2.0%	8.0%
	50代	76.0%	55.0%	37.0%	32.0%	26.0%	14.0%	14.0%	12.0%	3.0%	4.0%	1.0%
	60代	93.0%	49.0%	43.0%	49.0%	16.0%	11.0%	7.0%	3.0%	7.0%	1.0%	4.0%
女性	20代	72.0%	42.0%	40.0%	12.0%	27.0%	50.0%	21.0%	14.0%	1.0%	7.0%	6.0%
	30代	81.0%	56.0%	38.0%	22.0%	24.0%	32.0%	25.0%	9.0%	4.0%	3.0%	5.0%
	40代	79.0%	58.0%	51.0%	27.0%	26.0%	21.0%	20.0%	12.0%	8.0%	3.0%	6.0%
	50代	87.0%	64.0%	50.0%	35.0%	28.0%	17.0%	19.0%	17.0%	4.0%	4.0%	4.0%
	60代	94.0%	53.0%	54.0%	42.0%	14.0%	8.0%	17.0%	10.0%	3.0%	0.0%	3.0%

資料：第一生命経済研究所「新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査」2020年4月実施

<新型コロナウイルスに関して「不安」をもつ人は、どこから情報を入手しているのか>

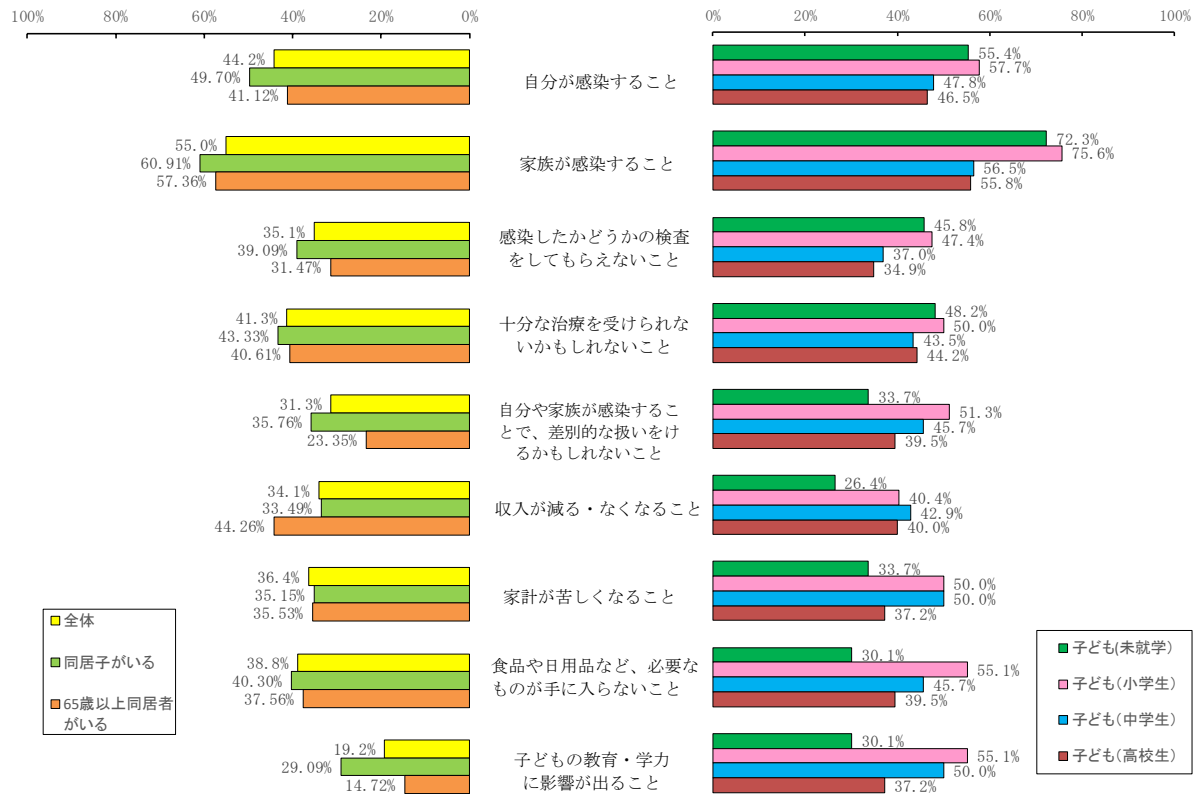
緊急事態宣言が発令される以前から、学校の一斉休校や週末の外出自粛などの日常生活を制限する措置が段階的に取られてきた。中でも大きな変更を余儀なくされたのは、子どもがいる家庭や高齢者と同居する家庭ではないだろうか。子どもが自宅で過ごす時間が増えると、生活リズムの維持、そして学習習慣をどのようにつけていくかは個々の家庭に任されることになる。

また高齢者と同居する家庭では、重症化するリスクが高いことや、家に閉じこもり「動かないこと（生活不活発）」による健康への影響も危惧される¹⁾。さらにデイサービスなどの通所型の介護事業所の自主休業の動きが広がり、家族の負担が増しているとの報道もある²⁾。

図表2で示したように、同居子がいる家庭や65歳以上同居者がいる家庭では、新型コロナウイルスに関する情報収集を積極的に行っているが、この背景には、感染や生活の変化への不安があると推察される。

図表5は、新型コロナウイルス感染拡大に関する不安についての回答を示している。未就学児や小学生と同居する家庭で、「自分が感染すること」「家族が感染すること」「感染したかどうかの検査をしてもらえないこと」「家計が苦しくなること」「食品や日用品など、必要なものが手に入らなくなること」「子どもの教育・学力に影響が出ること」について、他の属性よりも「非常に不安」と感じていることが分かる。

図表5 新型コロナウイルス感染に関する不安(全体、同居家族別)



注1：「非常に不安」と回答した人を抽出。

資料：第一生命経済研究所「新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査」2020年4月実施

特に小学生の子がいる家庭では、「自分や家族が感染することで、差別的な扱いを受けるかもしれない」「子どもの教育・学力に影響が出ること」について、他の属性に比べ5ポイント以上の差がある。65歳以上の同居者のいる家庭では、「収入が減る・なくなること」への不安が高い傾向がみられたが、それ以外は突出して高い項目はみられなかった。この結果を踏まえ、同居子がいる家庭および65歳以上同居者のいる家庭での新型コロナウイルス感染に関する情報源をみていく(図表6)。

図表6 新型コロナウイルスに関する情報源(同居家族別)

	テレビのニュース	インターネットの情報サイト	テレビのワイドショーなどの情報番組	新聞・雑誌の記事	官公庁やお住まいの自治体のWEBサイト	SNSで不特定多数によって拡散されている情報	人との会話や口コミ	専門家が個人で発言・発信する情報
全体	80.3%	54.8%	40.2%	29.2%	24.2%	20.8%	17.1%	10.0%
同居子がいる	84.5%	55.5%	42.4%	31.8%	23.6%	19.1%	19.1%	7.6%
子ども(未就学児)	77.1%	48.2%	36.1%	25.3%	21.7%	26.5%	21.7%	4.8%
子ども(小学生)	87.2%	61.5%	48.7%	23.1%	30.8%	21.8%	26.9%	5.1%
子ども(中学生)	82.6%	58.7%	47.8%	30.4%	21.7%	21.7%	19.6%	8.7%
子ども(高校生)	83.7%	46.5%	41.9%	37.2%	32.6%	18.6%	16.3%	9.3%
子ども(高校卒業以上)	89.2%	57.3%	44.6%	38.2%	19.7%	13.4%	16.6%	9.6%
65歳以上の同居者がいる	84.8%	57.9%	40.6%	37.6%	17.3%	12.2%	13.2%	10.2%

注1：各情報源の上位3位を色付け。その中で最もポイントが高い値を丸で囲んだ(10%以下の情報源を除く)。

大きな傾向は全体と変わらないものの、小学生の子どもがいる家庭では「インターネットの情報サイト」、「テレビのワイドショーなどの情報番組」、「人との会話やロコミ」への回答が他の属性よりも高く、さまざまな情報源から情報収集していることが分かる。また未就学児のいる家庭では、「テレビのニュース」「ワイドショーなどの情報番組」「インターネットの情報サイト」が全体よりも低い一方、「SNS で不特定多数によって拡散されている情報」が他属性より高く、情報収集に SNS を利用する傾向が相対的に強いといえる。

<情報収集による格差が広がらないために>

新型コロナウイルス感染拡大は、日常生活への制限だけでなく、自分や家族、身近な人の生命にかかわる可能性があるだけに、多くの人は積極的に情報収集を行っていることが分かった。また、年代や同居する家族の属性によって情報収集の積極性や手段に特徴あることが明らかになった。今後は、10万円給付金や各種の助成金などの手続きが本格化する。こうした手続きは、個々が各自自治体に申請しなければ受けることが出来ず、情報を知っているか否かが生活にも大きく影響することになるだろう。

情報源の主流となっているテレビやインターネットは、分かりやすく編集された情報や識者のコメントを提供しており、視聴者の理解を深める点で一定の意義がある。ただ、上述したように、必要な人が必要なサービスを漏れなく享受できるように、対象に応じたきめ細かな情報を、様々なチャンネルを通じて発信することが、今後さらに重要となっていくものと考えられる。

(ライフデザイン研究部 いながき みつ)

【注釈】

*1 調査の方法や結果の概要は、当研究所発行の以下のニュースリリースを参照されたい。

「新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査（前編）」

http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/news2004_01.pdf

「新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査（後編）」

http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/news2004_02.pdf

【参考文献】

1) 厚生労働省、「新型コロナウイルス感染症への対応について（高齢者の皆さまへ）」

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/yobou/index_00013.html>

(2020年4月21日アクセス)

2) NHK、「全国883の介護サービス事業所が休業 新型コロナウイルス」

<<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20200421/k10012399411000.html>> (2020年4月21日アクセス)